

本市の自殺の状況

※出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2017）」

1 本市の自殺の特徴

平成24～28年の自殺者数の合計1241人（男性816人，女性425人）（自殺統計（自殺日・住居地）を，性別，年齢（20歳未満，20～70歳代10歳刻み，80歳以上），同居人の有無，職業別（有職者：自営業/被雇用者，無職者：学生/主婦/失業者/年金等/その他無職，不詳）で256区分に分類

上位5区分（H24～28 合計）	人数	本市の取組
1 男性 70歳代 年金等 同居人有り	43	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者自立相談支援事業 地域包括ケアセンターによる相談支援 高齢者への見守り事業 （うつ病の）早期受診と適切な対応の知識の普及 保健福祉センターでの相談支援 法律相談 友愛運動の実施 老人福祉員の活動
2 男性 40歳代 被雇用者 同居人有り	42	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス対策の推進（相談窓口の設置，ストレスチェック制度，職場環境改善に関する支援，職場復帰支援等） 京都産業保健総合支援センターの活用促進 （うつ病の）早期受診と適切な対応の知識の普及 かかりつけ医・産業医うつ病対応研修会 保健福祉センターでの相談支援
3 男性 30歳代 被雇用者 同居人有り	39	男性 40歳代 被雇用者 同居人有りと同様
4 男性 20歳代 学生 同居人無し	35	<ul style="list-style-type: none"> 大学等における学生相談支援室での相談 大学生を対象とした研修会「いのちのリレー講座」 大学と連携した教職員への研修 子ども・若者総合相談窓口・若者サポートステーション 青少年活動センター相談事業 ひきこもりに関する相談支援 （うつ病の）早期受診と適切な対応の知識の普及 京都市若者就職支援センターでの支援 「京都学生祭典」の促進 メール相談事業
4 男性 50歳代 被雇用者 同居人有り	35	男性 40歳代 被雇用者 同居人有りと同様

2 全国との比較による本市の特徴

(1) 地域の自殺の特性

H24～28 合計	京都市自殺率	ランク	全国自殺率
総数	17.6	—	19.6
男性	24.3	—	27.7
女性	11.5	—	11.9
20歳未満	2.4	★	
20歳代	21.0	★	
30歳代	17.5	—	
40歳代	20.6	—	
50歳代	23.7	—	
60歳代	21.0	—	
70歳代	22.7	—	
80歳以上	16.4	—	
若年者(20～39歳)	19.1	—	
高齢者(70歳以上)	20.2	—	
勤務・経営 ^{注)}	14.0	—	
無職者・失業者 ^{注)}	31.3	—	

注) 特別集計に基づく20～59歳を対象とした自殺率

	京都市自殺率	全国自殺率
男性	20歳未満	3.2
	20歳代	32.5
	30歳代	24.7
	40歳代	26.8
	50歳代	31.5
	60歳代	30.5
	70歳代	30.3
	80歳以上	24.6
女性	20歳未満	1.6
	20歳代	9.8
	30歳代	10.5
	40歳代	14.7
	50歳代	16.3
	60歳代	12.4
	70歳代	16.6
	80歳以上	12.3

★ランクは全国1986市区町村（政令市除く市町村+政令市の区）中，上位20～40%に入ることを示す

(2) 子ども・若者関連の比較

児童・生徒等の内訳（特別集計（自殺日・住居地，平成24～28合計））

学生・生徒等 (全年齢)	自殺者数	割合	全国割合
中学生以下	5	6%	12%
高校生	8	9%	26%
大学生	68	77%	49%
専修学校生等	7	8%	14%
合計	88	100%	100%

(3) 全国と比較して自殺死亡率が高い区分（性別，年齢階級，同居人・職業の有無で24区分に分類）

区分	自殺者数 5年計	自殺率 (10万対)	全国 自殺率	背景にある主な自殺の危機経路の例※
女性40～59歳有職独居	14	21.6	13.5	職場の人間関係＋身体疾患→うつ状態→自殺
女性40～59歳無職独居	27	46.1	44.7	夫婦間の不和→離婚→生活苦→うつ状態→自殺
女性60歳以上有職独居	5	12.1	11.0	死別・離別→身体疾患→うつ状態→自殺

※生活状況別の自殺に多くみられる全国的な自殺の危機経路を例示したもの

3 特徴まとめ

(1) 若年層

- ・京都市の男性の20歳代学生の自殺者数は，256区分中4位に入っており，多いことを示している。
- ・20歳未満及び20歳代における自殺率が全国市町村のなかで上位20～40%にあたり，高い。
- ・20歳代のなかでも，特に男性における自殺率が全国平均と比較して高い。
- ・児童・生徒等の自殺のうち，大学生の占める割合が全国と比べ高い。
- ・本市においては，大学が多く学生のまちという背景から，若年層の自殺対策に力を入れていたが，本結果からもそれが推察される形となった。

(2) 女性

- ・中高年の独居女性における自殺率が全国と比較して高いのが特徴的と言える。

(3) 中～高齢者

- ・全国と比較して自殺率は高くはない。本市の自殺者数のなかで，高齢者が占める割合が大きい（全国も同様の傾向）。

【参考】

政令市別大学数及び学生数

	大学数	市民※における 大学生の割合	学生数計	男	女
札幌市	16	2.7	52,532	32,030	20,502
仙台市	10	4.4	47,420	27,620	19,800
さいたま市	3	1.3	16,044	10,714	5,330
千葉市	8	2.7	26,325	14,623	11,702
東京(23区)	94	5.7	534,298	290,695	243,603
横浜市	16	2.2	83,249	49,527	33,722
川崎市	5	2.0	29,765	16,721	13,044
相模原市	2	2.5	17,841	7,336	10,505
新潟市	7	2.8	22,489	12,198	10,291
静岡市	4	2.2	15,557	8,427	7,130
浜松市	5	1.4	11,433	6,705	4,728
名古屋市	16	4.4	101,926	55,437	46,489
京都市	28	9.8	144,082	75,816	68,266
大阪市	11	1.1	30,390	19,412	10,978
堺市	5	1.5	12,300	7,534	4,766
神戸市	19	4.5	69,638	33,973	35,665
岡山市	8	4.2	30,426	17,170	13,256
広島市	12	2.7	32,345	16,395	15,950
北九州市	9	2.2	21,327	11,840	9,487
福岡市	12	4.7	72,511	43,288	29,223
熊本市	7	3.4	25,473	14,386	11,087

※平成28年10月1日現在の推計人口

出典：学校基本調査（平成29年5月1日現在）